

# 文書センターだより

宮崎県総務課 宮崎県文書センター

第4号 2007. 10



青島港（昭和13年頃）

## 第4号目次

資料紹介 ― 在米国邦人社会主義者の状況 ― （明治42年） .....	2
表紙解説ほか .....	8

## — 在米国邦人社会主義者の状況 —

本センターが所蔵する「地方（長）官会議」の配布資料簿冊群は、明治39年から昭和16年に至る40冊でいずれも官選知事の時代のものである。

各簿冊の内容は、会議資料とはいってもそのほとんどが、当該年の会議における首相や各大臣の演説要旨や関連資料、地方官の意見陳述内容及び協議事項等である。昭和期のものになると各県側が会議のために準備する「地方長官会議参考書」とよばれる各県の資料を準備しており、これを添えて保存している。

これらの資料群の中には、地方官のために提供された情報と思われる資料も見られる。ここに紹介するものは、直接会議に利用されたものであるか不明であるが、会議開催年代当時の国内外状況を如実に物語るものであろう。

明治42年の会議は、5月6日から14日にわたって行われた。高岡直吉知事の時代のことである。

この会議に先立って、知事宛1通の書留（朱書）「秘」「親展」の郵便が届けられている。宛先は「□崎縣知事高岡直吉殿」とあり、住所はない。（この会議での高岡知事の宿泊所は「神田区淡路町関根屋」である。消印は「東京42-4-24 3-4」と「□42-4-27」の二つがある）差出人は「内務次官法学博士一木喜徳郎」である。

内容は、こより綴じ、表紙とも15丁（タテ27.5センチ、ヨコ19.0センチ）の冊子で表紙に「秘」の朱印があり、「在米国邦人社会主義者ノ状況」とある。

次に紹介するように、この資料は、サンフランシスコ（桑港）領事館事務代理領事官補高橋清一から外務大臣小村寿太郎（日南市出身）に送られた報告書（この原文書は、外交資料館に保存されていることを同館からご教示いただいた）で、小村外務大臣から内務大臣平田東助に送られ、内務省から知事宛に送付されたものである。

日時からみて、「赤旗事件」（明治41年6月）から「大逆事件」（明治43年5月）に至る間の社会主義者の動向に厳しい目を向けて情報収集の網をめぐらしていたことを物語る。



封筒



冊子表紙

左上に「秘」の朱印がある

## 《史料全文》

※掲載にあたり表記は原文のままとしました

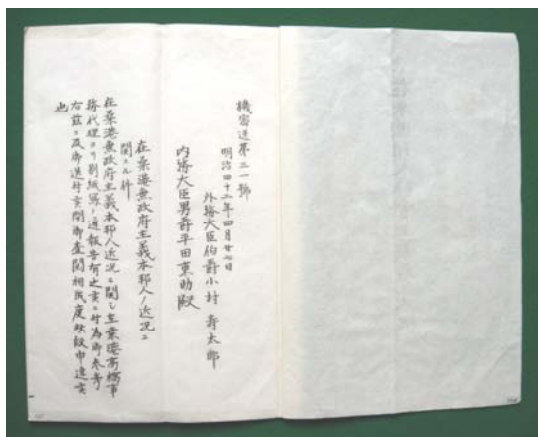
(朱印) 秘

(表題) 在米国邦人社会主義者ノ状況

機密送第三一号

明治四十二年四月廿七日  
外務大臣伯爵小村寿太郎  
内務大臣男爵平田東助殿

在桑港無政府主義本邦人ノ近況ニ関スル件  
在桑港無政府主義本邦人近況ニ関シ在桑港高  
橋事務代理ヨリ別紙寫ノ通報有之候ニ付、  
為御参考、右茲ニ及御送付候間御査閲相成度  
此段申進候也



機密第六号

明治四十二年四月一日

在桑港総領事館事務代理

領事館補 高橋 清一

外務大臣伯爵小村寿太郎殿

当地在住本邦無政府主義者ノ近況ニ関シ別紙  
報告書差進候ニ付、御一覽相成度此段申進候  
敬具

米国加州ニ於ケル日本人社会党ノ状勢報告

目次

桑港日本人間社会党主義ノ萌芽

社会主義者演説会ノ嚆矢

安部磯雄ノ渡来

幸徳秋水ノ渡来

雑誌「革命」

天長節ノ不敬

近来ノ言動

「フレスノ」労働同盟

### 桑港日本人間社会主義ノ萌芽

千九百三年（明治三十六年）ノ夏頃社会主義者片山潜ナルモノ「シカゴ」ニ開カレタル萬国社会主義者大会ニ列席ノ為メ渡米シ、途次桑港ニ上陸滞在スルモノ凡ソ二週間、日本人美以教会ニ演説会ヲ開キ、盛ニ社会主義ヲ鼓吹シタル結果、四五人ノ同志ヲ得テ、終ニ社会党桑港支部ヲ作りテ去レリ、片山潜ハ嘗テ十数年間米国東部ニ在住シタルコトアリ、米国ニ於ケル社会党ノ光景ヲ目撃シテ帰朝シ、日本ニ於テ社会主義ノ思想ヲ鼓吹シ、傍ラ米国加州ハ日本人ヲ優待スル樂天地ナルヲ説キ、「渡米ノ榮」ナト云フ冊子ヲ出版シ青年ノ之ニヨリテ渡米セル者モ亦多シト云ヘリ、同人カ当地ニ於テ演説会ヲ催フスヤ傍聴ニ集マリタル者二三十名、而シテ社会党ニ加盟シタル者僅カニ年少事理ヲ弁セサル二三ノ輩ニ止マレリト云フ

### 社会主義者演説会ノ嚆矢

越ヘテ千九百四年（明治三十七年）日露戦争既ニ始マリテ在留同胞社会ハ奮然トシテ起チ、軍資献納等ニ狂奔シ鶴首シテ捷報ノ到ランコトヲ待チツ、アルノ際、春三月頃ナリキ日本人美以教会ノ一室ニ社会主義者演説会ヲ開キタリ、其出席弁士ハ赤羽巖穴、岩佐作太郎及二三ノ輩ナリ赤羽巖穴ハ明治三十年頃日本ニアリテ数々ニ雑誌「日本人」ニ投書シタルコトアリ、東京法学院ニモ二年程通学シタルモノニテ、渡米后ハ桑港ニ於テ発行サル、日刊「新世界」ニ筆ヲ執リタル事アリ、日本ヲ去ルノ際『嗚呼祖國』ヲ著ハシテ東京ニ於テ出版シタルカ、其中ニハ日本ノ国体ヲモ罵リタル意味アリ、平生「トルストイ」ノ著ノ英訳シタルモノヲ愛読シタル故、宗教的博愛観ヨリ社会主義ヲ取ルニ至リタルモノニテ、今日ノ普通ノ經濟上ノ理論ニ根拠ヲ置ク社会主義トハ大ニ其趣ヲ異ニシタリ、彼レハ日露戦争ノ真最中ニ當ツテ、日本人福音会ニ於テ「平和ノ攪乱者ハ誰ソ」ト題スル演説ヲナセリ、

其ノ大意ハ

日露間ノ平和ヲ攪乱シテ戦争状態ニ至ラシメタルモノハ誰ナル乎、日本側ノ人ハ即チ曰ク露国ナリト、左レト所謂漠然露国ト云フハ露西亜皇帝ヲ指スカ聞ク「ヅアノ」ハ極メテ意思弱クシテ多クノ場合ニ於テ皇后ニ支配セラレ彼ノ和蘭「ヘーグ」ニ開カレタル萬国平和會議ノ發議ノ如キハ正ニ皇后ニ動かサレタル結果也、故ニ戦争ノ如キモ他ノ悪臣ノ為メニ制セラレ止ムヲ得スシテ起スニ至リタルモノニ然ラハ「ヅア」ハ戦争ヲ起シタルニアラスシテ其下ニアル野心家カ起シタルノミ、又タ翻テ露西亜側ヨリ日本ヲ見タル説ハ戦争ハ露国政府ニ非ス、日本カ之ヲ起シタルニヨリ止ムヲ得スシテ之ニ應スルノミト云フモ、偕其日本ト云フハ日本天皇陛下ヲ云フカ陛下ハ一視同仁ニシテ決シテ戦争ヲ好マス、然ラハ日本ノ国民カ、否<sup>レ</sup>国民ハ何事モ知ラス、結局戦争ハ野心アル政治家富豪上級ノ軍人、功名心ヲ以テ満チタル新聞記者輩ニヨリテ起サレタル也

憐ムヘキハ一般下級ノ軍人ト国民トナリ、彼等ハ一部少数野心家ノ犠牲トナリテ其心血ヲ絞り、其生命ヲ擲チツ<sup>ハ</sup>アリ、此点ヨリ見レハ我等ハ戦争ヲ非トスルト同時ニ暗殺ヲ是トス何トナレハ戦争ハ野心家カ他人ヲ犠牲トスルモノナレトモ暗殺ハ直ニ其野心家ヲ殺スモノナレハナリ云々

赤羽ハ名<sup>ハジメ</sup>ヲ一ト云フ長野縣ノ産、巖穴ト号ス、千九百五年（明治三十八年）ノ夏七月母ノ病ニヨリテ帰朝シ、後チ東京ニアリテ島田三郎氏ノ家ニ食客タリシ趣ニテ、又タ漸クニシテ社会主義ヲ捨テタリト傳ヘラル

### 安部磯雄ノ渡米

日本ニ於テ最モ早く最モ深く社会主義ヲ研究シテ之ヲ主張セル者ハ恐ラク安部磯雄ナラン、同人カ千九百五年（明治三十八年）ノ夏五月早稲田大学野球隊ヲ率キテ渡米スルヤ社会黨員等ハ特ニ同人ヲ招待シテ日本ニ於ケル社会

党ノ現状ニ付テ説明アランコトヲ乞ヘリ、安部ハ一場ノ演説ヲナセルカ、其中主要ノ点ハ

社会主義ハ早晚之ヲ行ツテ得ルモノナレトモ如何ニセン今日ハ之ヲ行フ能ハス、之ヲ行ハントセハ勢ヒ平和ヲ攪乱スルニ至ル、是レ夫レ自身ノ矛盾トナル故暫ク時期ヲ待チ子々孫々ニ此主義ヲ傳ヘテ徐ロニ之レカ実行ヲ期スルニ若カス

余カ敢テ主義ヲ枉ケテ早稲田大学ノ学頭ニカゼリ付ツ<sup>ハ</sup>アルニ非ス、又タ深思熟慮ノ末過激ナル運動ヲ慎ムノミ勿論「セオリ」トシテハ学窓ノ下ニ社会主義ヲ講スヲ辞セス

幸徳秋水ノ如キハ其経歴、自由党カ藩閥政府ノ壓迫ヲ受ケタル時代ニ身ヲ起シタルニヨリ政府ト云ヘハ必ス眦ヲ決シテ之ヲ嫉視スルノ癖アリ、是レ穩ナラス

ト云フニアリキ、赤羽、岩佐ノ徒ハ此演説ニ対シテ不平ヲ抱キ、衣食ノ為メニ主義ヲ賣ルモノトシテ憤慨措カサリシト云ヘリ

此頃ハ丁度本邦ニ於テハ堺、幸徳等頻リニ檢舉サレタル時ニシテ幸徳一派ノ発行セル「平民新聞」及其断篇零碎ノ著書訳書ハ絶ヘス、米国ニ送ラレ米国ノ社会主義者等ハ常ニ金ヲ送りテ之レニ酬フルアリ、漸クニシテ社会主義ノ何タルヤヲ知ルニ至レルモノ<sup>ハ</sup>如シ、故ニ在米国日本人間ノ社会黨員ナルモノハ始メヨリ研究ノ結果社会主義トナリタルニアラスシテ、一種ノ虚名ヨリシテ之ヲ主張シ、其手紙ナトヲ「平民新聞」紙上ニ掲載サル<sup>ハ</sup>所ヨリ段々深ミニ入りタルモノナリ



『地方(長)官会議』簿冊群』

## 幸徳秋水ノ渡米

千九百五年（明治三十八年）ノ冬十二月幸徳秋水獄中ニ病ヲ得療養ノ為メト称シテ渡米シ桑港ニ滞在ス、幸徳ノ滞在スルヤ何等ノ職業ナク岡繁樹ナルモノ、家ニ寄食シタリ、岡繁樹ハ土佐ノ人ニシテ嘗テ東京ノ萬朝社ニアリ廣告部ニ出勤シタル縁ニヨリテ幸徳ト知合ナルニヨリ之ヲ呼寄セテ雑誌又ハ新聞ヲ発刊セント計リタルコトアルカ如シ、併カシ岡ハ學問モ智識モアル人間ナラハ、一時ハ平民社ナト称スル團體ヲ桑港ニ起シタルモ社会主義者中彼レノ不徳ヲ怒ル者アリ、彼亦タ如何ニ考ヘタルモノカ近来ハ全ク關係ヲ絶ツニ至リ「サクラメント」ニ至リテ日本印刷所ヲ創メタリシカ、今復タ桑港ニ舞戻リテ「エクスプレス」業ヲ始ムヘシトカ聞ケリ、幸徳ハ千九百五年（明治三十八年）ノ十二月上陸シテ翌年五月帰国ノ途ニ就ケリ、滞在六ヶ月、為ス所ハ先ツ下宿ニテ開カレタル歓迎会ニ於テ演説シ白人ノ社会党ト脈絡ヲ通シポスト街ノ某館「ダウン・セラ」ニ於テ白人社会黨員ト共同シテ演説会ヲ開キ其他「日米」新聞紙上ニ数篇ノ論文ヲ載セタルノミ、然レトモ其日本ニ於テ走セタル文名ハ新聞雑誌ノ一般購読者ヲシテ幸徳ハ大家ナリトノ觀念アラシムルカ故ニ、其「日米」紙上ニ載セタル数篇ノ論文ハ、實際ニ於テ多数ノ同胞ヲ蠢惑セルモノト云フヲ失ハス、殊ニ其ノ数篇ノ論文ハ幸徳ノ著「平民主義」中ニ収録サレタルモノニシテ、而シテ「平民主義」ノ一書ハ直ニ發賣禁止ノ令ニ接シタルモノ而カモ米国ノ日本人書肆ニ於テハ自由ニ之レヲ售賣シタリ是レ發賣禁止ノ令ニ接センコトヲ慮リ警視廳ニ届出ツル以前ハ早く既ニ船積シテ米国ニ送リタルモノト思ハル、幸徳ハ当地「日米」新聞紙上ニ左ノ論文ヲ掲載セリ

日本移民ト米国

（發賣禁止ニ会ヒタル平民主義中ニ複載セラル）ト題スル文ノ一節

同胞諸君ノ米国ニ来タリシハ、米国ノ山水草木ノ秀麗ナルカ為ニアラス、米国文明開化ノ愛好スヘキカ為ニ非スシテ、實ニ唯其衣食ノ得易キカタメノミ、換言スレハ其生活シ易キカ為メノミ、是レ直ル日本ノ国家ハ吾人ニ生活ノ權利ヲ保障セステフ事ヲ意味スル也

（中畧）我日本ノ国家ニシテ能ク諸君ヲ保護シ諸君ヲ教育シ諸君ヲ生活セシメ安堵セシムルアランニハ、諸君何ソスクールボーイ人種タリハウス、ウォーク人種タル事ヲ好ム者ナランヤ、而カモ我国家日本テフ国家ハ吾人々民ノ生活ヲ保障スルコト能ハサル也、日本人民ノ多数ハ常ニ飢凍ノ憂ヲ免レサル也、日本テフ国家ハ同胞諸君ヲシテ其愛スル故郷ノ山水ヲ棄テ其愛スル父母骨肉ニ分レシメテ外国子女ノお三權助タルノ已ムナキニ至ラシメテ而シテ之ヲ名ケテ民族ノ發展ト称シ居レルナリ

## 雑誌「革命」

千九百六年（明治三十九年）四月十八日桑港大震災後幸徳秋水ハ幾モナクシテ歸朝セリ、但シ幸徳ノ滞在中社会黨員ノ數ハ幾分カ増加シタルカ如シ、其重ナルモノハ竹内鐵五郎、岩佐作太郎、倉持善三郎、山形春吉、村田稔等其他黨員數名ニ過キス、先ツ右數名ノ身分、経歴ヲ概記スレハ竹内鐵五郎ハ日本ニアリテハ中學ヲ卒業シタル由、其中學ニアル頃ヨリシテ幸徳、堺等ノ文ヲ好ミ其境遇頗ル貧困ナリシト云フ、現在米国ノ社会主義社中理論ノ上ヨリ熱心ニ該主義ヲ論唱セルモノハ竹内一人ノミニシテ、其他ハ多ク真面目ナラスト云フ、同人所論ノ要ニ曰ク

開闢以來ノ世界ノ歴史ヲ通觀スレハ第一ニ宗教革命アリ、第二政治上ノ革命アリ、第三ニ来レルモノヲ産業革命ナリトス、産業革命ハ手ヲ空クシテ得ラルヘキニアラス、現在ノ國家制度ヲ打破シテ而シテ後チニ得ラルヘシ元来進化ノ原則ニ於テ階級防衛ト云フ事アリ、猿ハ猿一團トナリ他ノ階級ト戦ヒ、蟻ハ

蟻ノ群ヲナシテ他ノ階級ノ害ヲ防ク、然ルニ何ソ萬物ノ靈ト自稱スル人類ニシテ互ニ相競争シテ蝸牛角上ノ争ヲナサントハ、須ク競争ヲ廢シテ他ノ階級ヲ防クノ途ヲ講セサルヘカラス云々

次ニ山形春吉、<sup>ナコン</sup>莫越ト號ス、現ニ雑誌「四千裡外」ヲ發行ス、純然タル文學雑誌ナリト稱スルモ尚ホ社会會義者ノ機関タルヲ失ハス、日本ニ在ル師範學校ニ入りシモ故アリテ放逐セラル、桑港震災後、桑港新聞ニ入りシモ、故アリテ退社シ別ニ雑誌「四千裡外」ヲ起ス次ニ岩佐作太郎、倉持善三郎、村田稔ノ三名ハ三年前迄桑港福音會ニアリ、不平ノ氣鬱勃トシテ吐クニ處ナカリシカ、會々片山潛ノ渡米シテ社會主義ヲ鼓吹スルアリ、乃チ之ニ加盟スルニ至リタル者共ナリ、元來福音會ト云ヘハ基督教信者ノ集マリナルカ如クナレトモ、其實無意味ノ名稱ニシテ單ニ某々日本人青年ノ集合ナリ、而シテ其經費ノ不足ハ當時「日米」新聞社長安孫子久太郎ノ為メニ補給セラレ居タリト云フ、安孫子ハ社會主義者ノ何タルヤヲ知ラス單ニ青年間ニ勢力ヲ得度キ野心ヨリシテ福音會等ニ寄附金ヲ吝マサルモノト見ユ、餘事ハ暫ク之ヲ措キ、彼等十數名ノ社會主義者等ハ幸徳ノ滞在中、白人ノ無政府黨員ト氣脈ヲ通シ遂ニ血ヲ啜ルノ式ヲ行ヒ同盟ノ約ヲ訂シタリト云フ

彼等ハ社會主義ヨリ一步ヲ進メテ無政府主義トナリタルハ幸徳、堺等ト同歩調ニ出タルモノニシテ其結果、彼等ハ皇室ニ對スル不敬ノ論ヲ英文ニ草シテ之ヲ公ニシ米國新聞ニ傳ヘラレ移民局ノ問題トマテ上セラルハニ至レリ事ノ次第ハ左ノ如シ

千九百六年（明治三十九年）ノ十二月彼等ハ其機關雜誌トシテ「革命」ヲ發行ス、第一號ニハ、日英兩文ヲ以テ帝、大統領ノ存在ヲ<sup>(ママ)</sup>悲認スルモノヲ掲載シタルカ英文ノ内最モ不穩ト思ハルハ個處ハ

現今ノ社會ニ於テハ富者ト貧困者トノ等差

ハ恐ルヘキ速度ヲ以テ増進ス、之レ資本家ノ階級カ總テノ利益ヲ壟斷シ労働者社會ニ何等ノ利益ヲ分與セサレハナリ、吾人ハ斯クノ如キ無慈悲ナル資本家ノ代表者ナル「ミカド」（我 天皇陛下ヲ指ス）「キング」（王）大統領等ノ一類ヲ擧ケテ之ヲ殲滅セント欲ス、且手段ノ如何ヲ顧ミルニ違アラサルナリ云々  
又和文ノ第一節ニハ

主權者ハ紳士閥族ノ私利私腹ヲ肥スノ道具ニ使用セラルハ虚栄物ニ過キス、木偶ニ過キス

第二節ニハ

主權者貴族富豪ハ國民ノ膏血ニ寄生スル條虫ナリ

第四節ニハ

各國ノ主權者ハ勿論貴族富豪及其階級ノ保護者タル學者軍人官吏宗教家ヲ擧ケテ滅亡セヨ

第六節ニハ

唯一ノ手段ハ爆烈彈ニアリ云々

斯ノ如キ突飛ニシテ激烈殆ント普通ノ想像外ニ逸出セル矯妄ノ文字ヲ掲ケ自ラ以テ得意トセリ、誠ニ狂愚ト云フノ外ナシ、元來米國移民規制ニ於テハ入國以來滿三ヶ年ニ滿タサル無政府主義者ハ之ヲ其本國ニ送還スルノ明文アリ、故ニ桑港移民局ニ於テハ此事新聞紙上ニ出ツルヤ否ヤ「革命」關係者ノ身分及入國ノ日時等ヲ取調ヘ桑港在住ノ合衆國機密吏ヘンリー、モフイツト氏ハ一々其取調ノ結果ヲ萃盛頓政府ニ通知シタル由ナルカ、移民局ニテハ右執筆者ノ一人ト目セラレタル竹内鉄五郎ヲ召喚シテ一通リ訊問スル所アリ、竹内ハ社會黨知事候補者タリシコトアル「オーズチン・ルイス」ヲ伴ヒテ出頭シ通辨「ガーデナー」氏ノ口ヲ通シテ陳述ノ要ニ曰ク

自分ハ決シテ無政府主義ノ信者ニアラス、今回ノ事タル自分ノ英語ノ不十分ナル為メ世ニ誤解サレシモノニシテ進化（エボリウシヨン）ト革命（レボウシヨン）ト原語ノ形相近似セルヨリシテ翻譯ノ際之ヲ過マリ

終ニ全文ノ意ヲ誤解ニ導キタルモノナリ、  
自分ハ決シテ爆烈彈ト銃劔ヲ以テ世界ノ主  
權者ヲ族滅セント云ヒシニ非ス、唯タ社會  
組織ノ上ヨリ將タ後進ヲ教育スル上ヨリ斯  
クノ如キ階級制度ノ漸次進化シテ吾人ノ理  
想ニ達スルナラント想像セシマデナリ、  
云々

ト頗ル曖昧ナル言ヒ譯ヲナシテ引キ下カレリ  
結局移民局ニ於テ調査ノ結果ハ、彼等ハ皆ナ  
三ヶ年以上ノ滞在ナルヲ發見シ送還ノ手續  
ニ及フ能ハサリキ

但シ雑誌「革命」ハ何處ノ印刷所ニ於テモ印  
刷ヲ拒絶セラレタル結果「ミ・オグラフ」刷  
ト為シテ第二號以下ヲ發行シ、且ツ其署名人  
等ノ名ヲ省キ無名ノ下ニ發行シ發布シタルカ  
月一回、十二三號ニシテ廢刊シタリ

### 天長節ノ不敬

千九百七年（明治四十年）十一月三日ノ朝マ  
タキ何者トモ知レス「睦仁君足下」ト題スル  
一文ヲ「ミ・オグラフ」刷トナシテ之ヲ諸々  
方々ノ日本人町ノ辻々ニ貼付シタル者アリ、  
而カモ其皇室ニ對スル不敬ノ文字ヲ羅列セル  
モノニシテ竹内、岩佐、一派ノ社會黨ノ手ニ  
成レルモノナル事ハ其標題ニ於テ察シ得ヘシ、  
勿論署名人ノ名ナキ故奈何トモスル能ハサリ  
シト雖モ同胞間ノ輿論ニ於テハ社會黨員等ニ  
對スル處置如何ノ物議ヲ起シタリ

### 近来ノ言動

社會黨員等ハ、數年ノ經驗ニヨリテ露骨ノ言  
動ハ自カラ禍スルノ大ナルヲ覺リタルモノト  
見ヘ、近来ハ陰險ナル手段ヲ取り雑誌「四千  
湮外」ニ於テ婉曲ニシテ遠廻ハシナル説ヲ公  
ニスル外、小説「犬の柱」ナトヲ日本ヨリ取  
寄せ、之ヲ普ク無代ニテ配布シツ、アリトノ  
説アリ

尚ホ彼等ハ事理ヲ解スルモノ、前ニ於テハ理  
論上ヨリ社會主義ヲ説明スレトモ、事理ヲ辨  
セサル者ノ前ニ於テハ主トシテ階級制度ヲ非

難シ、延ヒテ皇室ニ對スル不敬ノ言動ヲナ  
サハルハナシ、其演説ノ如キ皆ナ然リ、現ニ  
「オークランド」第八街ニアリ日本俱樂部ハ  
彼等カ毎土曜日ノ夜集會ヲ催フシテ各國ノ帝  
王、大統領ヲ罵レル機関タリ、勿論彼等一味  
ノ徒黨以外ニ彼等ノ演説ノ傍聴ニ出掛ケル者  
モナシト雖モ、何カ珍シキ問題ノアル毎ニ異  
様ノ演題ヲ掲ケテ廣告スルカ故ニ「オークラ  
ンド」日本人社會ニ於テモ、漸ク問題トナリ  
ツ、アリ、演説ヲナスモノハ岩佐、竹内、倉  
持二三ノ輩ニシテ黨員ハ全体ニ於テ二三十名  
ハ之アリト云フ

### 「フレスノ」ノ労働同盟

北加州ノ沃野ハ二大部ニ分レ「サクラメント」  
平野及ヒ「サンノーキン」平野トナレルカ「サ  
ンノーキン」平野ノ中心ハ「フレスノ」ニシ  
テ平素數千ノ日本人アリ、殊ニ葡萄摘採ノ時  
期ニ至レハ多數ノ労働者入込ミ来ル例ナルヲ  
以テ、社會黨員等ハ昨年夏此地ニ労働者同盟  
ナルモノヲ起シ巧ミニ愚民ヲ瞞着シテ其金品  
ヲ集メ、傍ラ雑誌労働ヲ發刊シテ社會主義無  
政府主義ノ鼓吹ニ努力シ居レリ

在米日本人間ニ於ル社會主義者ノ状勢ハ畧ホ  
前ニ述ヘタルカ如シ、要スルニ其領袖ハ二三  
少年ノ輩ニ止マリ、且ツ其言動頗ル幼稚ニシ  
テ其徒黨モ僅々二三十名ニ過キサルヲ以テ目  
今ノ處勢力固トニ微々タリ左迄眞フルニ足ラ  
スト認メラル

### — お詫びと訂正 —

文書センターだより第3号の記載事項に一部誤りが  
ありました。お詫びして、下記のとおり訂正させて  
いただきます。

3ページ表中 梅目山橋 経間

誤) 102.0尺

正) 12.0尺

## 《 表紙解説 》

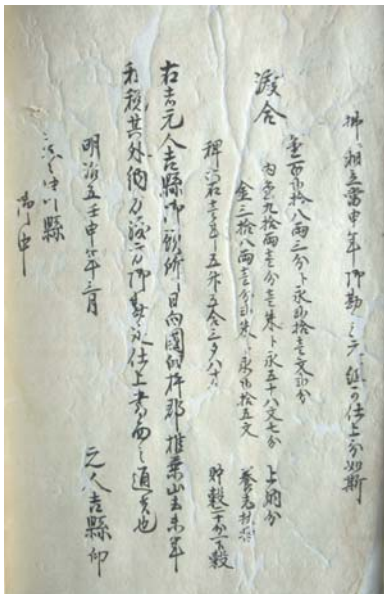
昭和13年頃の青島港修築前の「折生迫」の姿である。現在の青島6丁目、城山公園登り口附近から撮影したもの。正面右手、陸地が海中にのびた先に青島がみられる。手前には、宮崎軽便鉄道の内海までの路線がみられる。「折生迫」は、戦国時代伊東48城の一つで、天正期には宮崎城主上井覚兼の父兼薫の隠居城として知られる「紫波洲崎城」(しはすざきじょう)の麓の港町として「折生迫千軒」とよばれるほど繁栄し、数少ない宮崎平野の要衝の港町であった。

また右の地図は、表紙写真の地域を含む海陸の水深高程の測量図「内海港附近」(2万分の1)で日本海軍が作成したものである。「大正9年至10年海軍ノ測量。但シ折生迫錨地附近ハ明治30年ノ測量、細体ノ部分ハ小尺度ノ図ヲ伸書シテ補フ」とある。青島・折生迫・城山ほか内海までの宮崎軽便鉄道の線路及び停車場などが記されている。



海軍作成測量図にみる青島港

表紙写真は、★の位置(城山)から矢印方向に向かって撮影されたもの



標題「明治四辛未年日向国椎葉山御勘定目録」より抜粋

## 三史料紹介

### 一 明治初年の日向国臼杵郡椎葉山史料 一

文書センターが進めている簿冊件名目録作成中、分野の異なる簿冊群に混入していて新たに確認された史料で、日向国椎葉山に関する人吉藩の史料である。

天領椎葉山は、明暦2年(1656)に肥後人吉藩に預けられた。明治4年(1871)7月の廃藩置県により人吉藩は人吉県となるが、さらに11月の県の廃合により椎葉山4村は美々津県に組み入れられた。

史料は、「村々様子大概書」「御勘定目録」など、明治4年2月(一部天保年間)人吉藩の12件の綴で全104丁。旧人吉県から美々津県へ提出されたものである。落丁・欠損もあるが、明治初年の椎葉山の村高や人口、家数、牛馬数をはじめとした村の様子を知ることができる。

美々津県は明治6年(1873)には宮崎県となるが、それらの機構変遷を経て引き継がれてきたものである。

## 利用案内

### ■ 開館時間

月～金曜日 午前9時から午後5時まで

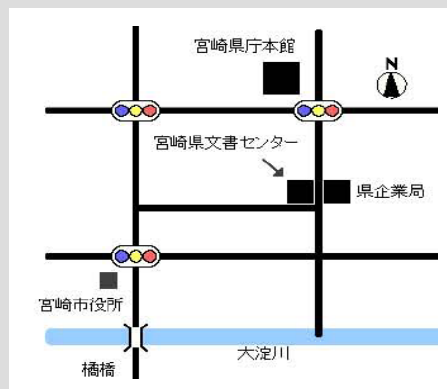
### ■ 休館日

県庁閉庁日(土日、祝日、年末年始)

※ただし臨時休館することがあります

### ■ 利用方法

初めて収蔵資料の閲覧をされる方は「利用証」の交付を受けて下さい。



宮崎県文書センターだより 第4号 平成19年10月1日発行

〒880-8501 宮崎市橋通東1-9-30 宮崎県総務部総務課内 宮崎県文書センター  
TEL(0985)26-7027/FAX(0985)28-6659